

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	ブレミアムAngeli	公表日	令和 8年 3月 31日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		利用定員の基準に対し適切である。集団・個別活動に応じ、パーティションの利用や配週の変化を行い対応している。	今後も適切なスペースの確保を行うとともに、状況に応じたスペース作りを務める。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		職員の配置数は適切である。児童発達支援管理責任者・児童指導員が所属し、安全に利用できるよう努めている。	今後も安心・安全に利用できるよう職員配置数を遵守していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		生活空間は色の統一化や場衣類を抑えた環境設定を行っている。また、トイレの手すりやフロアなどはバリアフリー化されている。	環境設定の見直しを定期的に行い、安全に利用できるよう配慮していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		毎日、清掃や感染対策を行い、安全管理にも努めている。活動に合わせたレイアウトを行い、環境設定を整えている。	今後も生活空間を清潔に保ち、安心して過ごせるよう、清掃・安全点検をしっかりと行っていく。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		こどもの状況に応じ、個別の部屋の利用を行っている。また、大きなパーティションを用いて集団と分けられるよう工夫している。	その日のこどもの状況や相性、特性などを考慮し、部屋のレイアウトなどを柔軟に対応できるように工夫を重ねていく。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		職員全員で業務の可視化を行い、計画的に進めている。また、毎日ミーティングにて振り返りを行い次の目標を設定している。	職員全員が同じ目標に向かって支援を行えるよう意識付けをし、より良い改善に努める。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		評価表を基に職員全員で話し合いの機会を設け、意向やニーズの共有をし、業務改善に繋げている。	今後も職員全員で話し合う機会を設け、改善に繋げる。
	8 職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		毎日のミーティングの中で意見交換を行い、職員全員が共有し業務改善に努めている。	全職員が意見を発信しやすい環境と場を作っていく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	役職者が評価を行い、改善点や保護者等の意向などがあれば業務改善に努めている。	今後も評価を基に、様々な職員や意向を柔軟に受け止め、業務改善に努めていく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		毎月、研修を行う機会を設けている。また、外部研修への参加や、事件の事例をもとにした研修も行い資質向上に努めている。	内部研修は定期的に継続していく。また、外部研修も職員の資質向上のため、積極的に参加していく。
11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		支援プログラムの作成は、実際に行っている活動内容を振り返り下げ、定期的に見直しを行いホームページで公表を行っている。	今後も定期的な見直し、公表を行っていく。	
12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		定期的なアセスメントを行い、ニーズや課題を整理し、支援計画書の作成を行っている。	日々の中から保護者様が意向やニーズの発信をしやすい環境づくりを行い、支援計画書に反映させていく。	
13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		全職員で支援会議を行っている。また、日々でのミーティングの中で支援方法の統一を図っている。	支援会議への参加の継続と、日々の支援の中で気づきや情報を、全職員で共有し統一支援に繋げていく。	
14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		支援会議やミーティングの中で、児童発達支援管理責任者が発信し、職員全員で共有を行い統一支援に繋げている。	全職員が興味と携わっていく意識を持ち、支援を行う。	
15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		5領域支援を基準とした事業所独自のツールを用いて記録をし、職員間で共有、把握に努めている。	今後も日々の記録を継続して行っていく。	
16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		支援計画書は5領域に沿って作成され、本人支援・家族支援・移行支援においても項目別に設定している。地域支援の一環として地域交流の場を多く設けている。半年に1度の見直しをし、ねらいを具体化しシモールステップで取り組んでいけるよう設定している。	家族支援・移行支援については意向や・ニーズを踏まえながら取り組んでいく。地域支援・地域連携については今後も力を入れていきたい。	
17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		職員全員で話し合い、立案を行っている。計画から準備までを全員が携わること、内容の把握を行っている。	全員が携わる意識を常に持ち、様々な意見を出し合い立案を図っていく。	

適切な支

援
の
提
供

18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	繰り返し強みの固定化したプログラムはあるが、野外活動やイベント、Cookingなどは内容を工夫を入れている。	今後も成長に伴った活動やイベントへの参加を行い、地域交流にも力を入れていきたい。
19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	活動に応じて、個別・小集団・大集団を組み合わせて支援を行っている。その日の子どもの状況に応じて変更し対応している。	こどもの状況や活動の内容に合わせて、柔軟な対応で支援を行っている。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	毎日、ミーティングの中で一日の流れや担当の確認を行い連携を図っている。	日々のコミュニケーションを大切に、各自がより積極的に内容把握に努める。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	翌日のミーティングの中で振り返りを行っている。送迎時の申し送りや緊急時にはその制度、情報の共有に努めている。	今後も振り返りでの改善点や気づきを共有して、より良い支援に繋げていく。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	経過記録として毎日記録を取り、課題の見直しや改善に努めている。	記録の継続を行い、記録を基により深い視点で話し合い改善に繋げていく。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しが必要な性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	半年に1度モニタリングを実施し、成長した点、新たな課題を把握し、個別支援計画の見直しを行っている。	今後も定期的にモニタリングを行い適切な内容になるよう、精査を行っていく。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○	4つの基本活動を組み合わせて支援を行っている。今年度は地域交流や就労に繋がる活動を行い、長期休暇の余暇時間見直しも行った。	4つの基本活動に加え、引き続き地域交流活動に力を入れていきたい。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をす力を育てるための支援を行っているか。	○	参加の有無、おかりの有無、余暇時間の過ごし方等、様々な場面で選択できる機会の提供を行っている。	発信が難しいこども達に発信、選択できる手段を提案し増やしていきたい。
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	児童発達支援管理責任者が出席している。必要に応じて児童指導員が同席している。	引き続き、担当者会議へ参加を行っていく。
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	協力医療機関との連携体制を整えている。現在、訪問看護サービスの体制を整えている。	桜十字グループとの連携で、今後は新しい取り組みが行えるよう体制を整えていきたい。
28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	学校の情報はホームページで確認している。送迎時に学校からの申し送りやこどもの様子の情報共有を行っている。	今後も学校との連携を図り、情報共有を行っている。
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	契約時に保護者や相談支援員からの情報の共有を行っている。	情報共有と相互理解に前向きに取り組んでいく。
30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	就労先への情報の引き継ぎを行っている。安心して新しい環境へ移行できるように努めている。	移行後、スムーズに生活が送れるよう必要な情報共有に努めていく。
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイザーや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	ケース会議や、外部研修などに参加する機会を設けている。	今後も継続して研修に参加し、より深い連携を図ってきたい。
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	児童クラブや児童館との交流の機会はなかったが、地域のイベントの際に他のこどもと触れ合える場に参加ができた。	地域のイベントへの参加を増やし、他のこどもとの触れ合いの機会を増やしていきたい。
33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○	参加する機会はなかったが、参加できるように前向きに検討していきたい。	参加の検討を行っていく。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時や連絡帳で情報共有を行っている。必要に応じて電話連絡も行っている。その情報やニーズはアセスメントに記録している。	日頃から保護者様との信頼関係を築き、伝えやすい体制を整え、意向やニーズの共通理解を深めていく。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	ご家族への支援や研修は行っていないが、いつでも相談できる体制を整えている。	保護者様のニーズに合わせて支援プログラムの提供を提案していく。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に管理者より適切な説明を行っている。	保護者様への丁寧な説明はもちろんの事、周知する手段を検討していく。
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	担当者会議や子どもを交えたモニタリングを実施し、意向やニーズを最優先に考え作成を行っている。	利用者様や保護者様の意向やニーズがしっかりと反映されるよう、話し合いがしやすい環境づくりを行っていく。
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	児童発達支援管理責任者が説明を行い、疑問点や修正がないか確認をしてからサインを頂いている。	今後も丁寧な説明を行うとともに、疑問点などを遠慮なく伝えられる関係の構築を目指す。

関
係
機
関
や
保
護
者
と
の
連
携

39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	様々な職員が相談に応じている体制を取り、必要に応じて管理者が対応を行っている。また、職員間で共有を行い支援に活かしている。	全職員が相談に適切に対応できるスキルを上げていく。また、保護者様のニーズによっては面談の取り入れも今後は検討していく。
40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○	7年度は保護者会の開催はできなかった。今年度は開催できるよう準備を進めていきたい。今後、桜十字主催のイベントできょうだい同士の交流の実現に向けていきたい。	今年度は父母会の開催を検討し、体制を整えていく。また、桜十字主催イベントなど、きょうだいが参加しやすい場の提供も合わせて検討していく。
41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情対応窓口の設置を行っている。対応方法・改善策などを記録に残し、次回に繋げている。	今後も苦情やご意見に対し、迅速・丁寧な対応を心掛けていく。
42	定期的に通告等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	毎月、新聞の発行・配布を行っている。行事予定や連絡の記入に加え、活動の様子を写真で掲載を行っている。	定期的な新聞の発行の継続に加え、ホームページでの情報周知も検討していく。
43	個人情報取扱いに十分留意しているか。	○	個人情報ファイルは鍵付きキヤードネットで保管し、写真掲載の同意書も得ている。また、個人情報取り扱いの研修に全員参加した。	今後も研修などを通して、職員の意識向上に努める。
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	一人一人に合った意思表示の方法、環境を模索し実践を行っている。手話の見える職員の配置や、パソコンの練習に取り組んでいる。	分かりやすい情報伝達の配慮を模索していく。
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	イベントの際、ボランティアや外部講師を招いたり、他事業者の研修受け入れなどを行っている。	今後も地域交流のイベントや外部研修の受け入れなど積極的に取り組んでいく。
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	各マニュアルについて策定を行っている。定期的な研修・訓練を行い周知が出来ている。今年度は内容は見直しも行った。	保護者様への周知がまだ不十分のため、周知へ取り組んでいく。
47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	BCPに沿った避難訓練の実施、外部訓練も行っている。備蓄品の管理、見直しも定期的に行っている。	非常災害時に様々な想定を行い、課題や問題点をクリアできるような訓練を行っている。
48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	契約時に情報の共有を行っている。対応方法については書面にて作成し、全職員で共有を行い対応できるように努めている。	引き続き、成長に伴った最新の情報共有を行い、安全に利用できるように努めていく。
49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	アレルギーの有無の把握を行っている。食事提供時の注意点（刻み・マンナン）を伺い、対応に努めている。	食にまつわる様々な注意点到、柔軟な対応を行っている。
50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画に基づき研修・訓練を行っている。安全点検の実施を定期的に行い、不具合があればその都度改善を行っている。	定期的な研修、訓練の継続と安全点検を行い、不具合があれば迅速に対応をする。
51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	安全計画を作成し、遊玩場所を記載したプリントの配布を行った。	安全確保の取り組みについて、保護者様へ定期的な周知を行っている。
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	○	毎月ヒヤリハットを記録し、全職員で共有・検討を行い、再発防止に努めている。	今後も職員間での共有・検討をしっかりと行い、安全に過ごせる場の提供を意識していく。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止委員会を設置している。定期的な研修を行い、職員の理解を深め防止に努めている。	今後も研修等を通して、全職員の資質向上に取り組んでいく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	身体拘束は行わない前提としているが、やむを得ない場合、保護者様へしっかりと説明が行える体制を整えている。	身体拘束について組織的に決定している事項の遵守と保護者様への周知を継続していく。

保護者の説明等

非常時等の対応